

令和5年度第2回男女共同参画推進会議 議事要旨（令和5年10月24日土岐市文化プラザ）

委員	近藤眞庸 委員、内山眞由美 委員、加藤泰子 委員、三輪やよい 委員、 稲垣妙子 委員、戸松陽子 委員、長瀬洋子 委員
事務局	土本訓子まちづくり推進課長、伊佐治英津子まちづくり推進課人口減少対策係長、 川上裕央まちづくり推進課主査

【次期男女共同参画プランについて】	
事務局	資料に基づき説明
会長	「LGBTQ」と使われる方もいらっしゃるが、行政ではそういう方も含む表現として「LGBT」と使っているということによいか。
事務局	規定がないのでそのようにしている。プランのなかでは「LGBT」としているが、Qを入れたほうがよいというご意見があれば対応する。
会長	「LGBT」の中にそれを含むという考えであればよいかと思う。この中では少なくとも統一されていることが大事である。
委員	資料2の3、4ページで基準値、中間値、目標値が「-」という表記になっているものは、事業をやれなかったのか、これからやるのか。どういう意味でこの表記になっているか。
事務局	ひとり親家庭の支援の充実は、学びの場や学習支援事業を実施するものである。ひとり親家庭の子どもが増えるとういわけではないが、減るわけでもない。市として事業は継続するものの、その回数や場所を増やすところへの検討には至っておらず、事業を実施することが目標になっている。
委員	他の箇所もそのように理解すればよいか。
事務局	それらの事業は現在実施している状況である。それを増やせばよいか減らせばよいかという軸で判断するのは非常に難しい。4ページのDVの緊急の受け入れ場所の確保についても同様である。そもそも該当者がいなければよいが、ただ見えてない部分もある可能性がある。実際の値に置き換えると難しいため目標値はない。情報提供も実施するし、支援の体制も整えるということで位置付けている。
委員	そのような場合は、取組のところで考えを書いておいていただければ理解しやすい。数字としてあげるのではなく、やることを記載していただければよいと思う。
事務局	承知した。
委員	続けての質問をさせていただく。資料1の21ページで判定がDの項目が連なる部分は市民意識調査の結果からという理解でよいか。
事務局	その通りである。
委員	農業委員の女性は1/3ほどだったが、全てのまちから女性の委員が出ており、100%だった。そういう意味ではとてもよいと思う。また、土岐市の職員でも育児休業を取得する男性がおり、そういったところでも少しずつ進んできていると感じる。よい傾向にあることを感じている。
会長	今のご意見に触発されて思うことがある。アンコンシャス・バイアスが諸悪の根

	<p>源である。固定的な性別の役割意識がある。啓発は大事だが、何よりも、今のお話にあったように行動を起こすことが大事である。遺伝ではない文化的な部分は変えていける。育児は母親がするものという連鎖を無くすためには、勇気ある人たちの行動をもっと宣伝、周知することや「それもありなんだ」ということを知らせることなどが必要である。啓発や学習はもちろん大事だが、通り一遍の学習では変わらない。身近な人が変わっていくこと、その周知、啓発の仕方を習熟させていくことが大事である。最近家事も外注できる。たとえば食事も買って来たものを温めるだけでも立派である。母親がやってきたようにできなければという意識の人もある。そうやって自分自身で追い込んでしまう方が多いが、外部に頼ることも大事である。</p>
委員	<p>少し話題が違ってもいいかもしれないが、身近なところでの話として、自分の住む地域では70～80代の方が多くなっている。祭りなどは男性ばかり集まって、めんどろなことはやめればいいという意見が多くなっていた。そんな中、女性も集まるとやめてしまうばかりではいけないという意見が出た。また、今の若い方の中には子ども達のために、という意識を持っている方もいる。意識の部分が大事であると感じたことだった。</p>
会長	<p>年を重ねるとそのような意識になってしまいやすいことは感じている。今の若い世代の人たちが変わっていけば、その次の子ども達の世代も変わっていく。そのように変わっていけばよいと思う。</p>
委員	<p>4ページの「配偶者等からの暴力のない社会づくり」の施策「相談支援体制の充実」について、先日家庭指導員の先生からお話をいただく機会があった。ドメスティック・バイオレンスを受けている方が一時的に避難でき食住が一週間程保障される場所がある。その後もし家庭から出るのであれば自立していかなければいけないが、ほとんどの方は経済的に自立できず戻らざるを得ない状況である。緊急避難の支援は現在行っているが、その後の自立支援をもう少しできるとよいのではないかと思ったところである。</p>
委員	<p>ひとり親家庭の支援について、まずは把握しなければ支援もできないと思うが、プライバシーの問題もあるため、ひとり親家庭であるということをどのように把握されるのが疑問である。どのように進めていかれるのか。</p>
事務局	<p>児童扶養手当や医療費の助成などの制度があり、子育て支援課が窓口となっている。市ではそれらの申請によりひとり親家庭と認定している。そうした方に対して、様々な制度や支援があるということを周知させていただいている。</p>
委員	<p>申請をいただいて、その方に対してこうした事業があるとお知らせするという理解でよいか。</p>
事務局	<p>その通りである。ひとり親家庭なので経済的に厳しい家庭もある。また、ひとり親家庭でなくても経済的に困窮している家庭もある。学校を通して把握ができるので、そういったところを経由して行き渡るようにしている。</p>
会長	<p>相談できる人がいるとよかったケースであろうと感じる。誰もがそのようになる可能性がある。パートナーシップの実現が進まないとなかなか色々なことも進ま</p>

	<p>ない。パートナーシップ制度の導入に関しては、岐阜県はほぼ最下位で、県内で関市だけが導入していたが、9月から県で適用したとのこと。それにあたって第1号カップルの男性同士が記者会見をしていた。先程のお話と同じで、「そういうことができるのだな」ということが他の人にもわかるようになることが大事である。市町村では窓口や問い合わせ先は作られているのか。例えば当事者が来られた時はどのようになるか。県との連携などはいかがか。</p>
事務局	<p>県からは市の行政サービスで連動してやれるものはないかという話がある。想定がなかったので難しいが、例えば戸籍上の家族でなければできない手続きがパートナーならばできるようになるようなものがあれば対応するなどが考えられる。現在パートナーシップの申請の窓口はすべて県で対応されており、県に申請し、県で認定してもらった仕組みになっている。県のホームページでは各市町村の担当課について案内されているが、市からは相談がきたら県につなぐようなPRは行っていない。</p>
会長	<p>愛知県もパートナーシップ制度を導入している。市町村によって対応が異なり、導入していないところが目立ってしまっている。アンケート結果をみるとパートナーシップ制度の導入に関して30%の回答があり、すごいなと思って見ていた。県がやるのであれば、せっかくなので進めばよいと思う。意識を変えていくことはなかなか難しいが、制度を変えることで変わっていくこともある。そういうニュースがいつか流れればよいと思う。ここに書かれたものが絵に描いた餅にならないように、他にもご意見があればいただきたい。</p>
委員	<p>市民意識調査の結果にある表現の「男女の地位の平等」とは何かということを考えていた。以前言ったこともあるが、例えば、職場で男性と女性が一緒にならなくても身体が違う。女性は月に一度は体の辛い状態が訪れる。そういうことを男性がわかっていないのではないかとよく考えてしまう。ハンディキャップということを使うのではないが、そこに差はあることを思う。堂々と一か月に一回休める環境があれば平等と考える。</p>
会長	<p>男性としても辛い点はあるだろうと思う。</p>
委員	<p>そういったことを言いはじめるときりがなくなってしまう。逆の立場からしたら、「男性としてもこういうことが辛い」という意見もあるのではと思う。市民調査の結果については、文面や表現を考慮するとまた異なってくるのではないかと考える。</p>
	<p>【その他】</p>
事務局	<p>事務局より2点ご連絡する。1点目は策定にかかる今後のスケジュールについて。基本的に大きな変更はなかったかと思うが、今日いただいたご意見を踏まえてパブリックコメントを実施する。そこで出た意見について協議が必要であれば再度会議を設け、委員の皆さまと議論したい。パブリックコメントでご意見がなければこの計画の策定を進めていくのでよろしくお願ひしたい。いずれにしてもパブリックコメントの結果は終了後に皆様に情報提供をさせていただく。</p>

	<p>2点目は男女共同参画講演会についてのご案内になる。お手元に資料を配布したが、11月8日水曜日、土岐商業高校でNPO法人参画プラネットの方を講師に招いて開催する。高校生を対象に、これから社会に出ていく高校生の皆さんが身近に存在する男女の不平等の実態を認識して、一人ひとりの個性を発揮できる社会の実現に向けて考えていただきたいと考えている。</p>
会長	<p>私は他の自治体でもこのような会議に参加させていただいているが、こんなに活発で皆さんが議論されているところは珍しい。公募委員の皆さまも積極的にご発言いただいている。担当者と私とでやって、これでよいかと言って「それでよい」で決まってしまうところもある。議事録を見て色々なご意見があったのだなということも見える。皆さんのご意見で少しでもよいプランになり、土岐市の男女共同参画社会が推進されればと思う。土岐市のことがよい噂として聞こえてくればよいと思う。これをまたブラッシュアップして策定していただければと思う。</p>
	<p>終了</p>